

クチナシ

科 名：アカネ科クチナシ属

園芸分類：常緑性低木

【置き場所】

半日陰になる場所（例えば午前中は日が差し込み、それ以降は日陰になる）に置きましょう。

鉢植えならば、夏の強い日差しから避けるために明るい日陰に移動させ、冬は日当たりの良い場所に置きましょう。

寒さに弱いので、寒冷地の地植えは適しません。枝の先端から枯れてきます。寒風を避け、寒さを防げる場所で管理してください。

【水やり】

乾燥が苦手なので、土の表面が乾いたらたっぷり水を与えます。

夏は日照りが強く水分の蒸発が早いので、特に水切れがないように、鉢植え、地植えとも水やりには十分気をつけてください。

室内ならば、エアコンの冷風で乾燥させないように注意しましょう。

冬の水やりは夏ほど気を使わずに済みます。表面が乾いたら水をあげましょう。

ただ室内であれば、今度はエアコンの暖房風ですぐに乾燥してしまうことがあるので、直接風の当たらないところに置いて水をあげます。

【植え替え】

植付け、植替えの時期は基本的には適期は4月～5月です。

庭植えの場合は、元肥として用土に腐葉土や堆肥、緩効性化成肥料を混ぜ込んでおきます。根を切らないように注意しながら根鉢を1/3程度崩して植え付けてください。根付くまでは乾燥に注意します。

鉢植えの場合は、赤玉土(小粒)7・腐葉土3などの配合土に緩効性化成肥料を混ぜ込んで用土を作ってください。鉢植えの場合は、根詰まりを起こすので、2～3年に一度植え替えを行います。

根鉢を1/3程度崩して、伸びすぎた根があるようなら切り詰めます。一回り大きな鉢に新しい用土で植え付けてください。

【肥料】

庭植えの場合は、3月頃に元肥(寒肥)として骨粉入りの油粕を株元に施します。

追肥は花後に同様の肥料を与えてください。

鉢植えの場合も同様で、3月と花後に骨粉入りの油粕や緩効性肥料を株元に施します。

【せん定】

クチナシの花芽は、花後に伸びた枝に作られます。

真夏を挟んで花後と秋に花芽分化し、翌年に花を付けます。

剪定の適期は花後の出来るだけ早い時期です。自然に樹形が整うので、大きな剪定は必要ありません。

混み合った枝や枯れた枝を切り取り、ひこばえがあれば切り落としてください。

古い枝には花芽が付きにくいので、枝分かれしている部分で切り、枝を更新します。

【害虫】

オオスカシバの幼虫に注意してください。クチナシに好んでにつく大型のイモ虫で、6～10月頃に発生して葉を喰い荒らします。緑色型と褐色型があり、どちらも尾の先が鋭く尖っているのが特徴です。

大型で目につきやすいので、発見したらすぐに捕殺してください。また、薬剤に弱い虫なので、殺虫剤を定期的に散布して予防していきましょう。